

家具とオーガニックとの調和

デザイン学科/ヒューマンプロダクトコース

渡辺仙一郎

Harmony of Furniture and the Organic

Department of Design, Human Product Course

WATANABE Senichiro

■はじめに

新世紀の潮流としてあるサスティナビリティのなかで、ヒートアイランドの緩和策の一つとして、緑地の増加や植栽の役割が重要視され、建物の外側に緑を増やす努力が求められている。また都市化と比例して、精神的にも植物との親密な関係を築くことを好む傾向がある。植物を身近に置くことにより、ストレス解消や、筋肉の緊張をほぐし疲労回復の心理的効果があると解明されてきた今、緑との調和をとろうとする人間の自然な働きであると考えた。

■コンセプト

そこでインテリアの役割として、その外界（自然）を生活環境という内包された空間へ取込み、内と外の繋がりをもたせることで相互に関係付け、人工とナチュラルとの対比を共鳴させることが重要だと考えた。

具体的には、インテリアエレメントである家具と外界とをシームレスに繋ぐことを目的とし、現代生活のペースでもあるダイニングチェアを中心と位置付けデザインに落とし込んだ。

■デザインの考え方

そのダイニングチェアのデザイン（No. 1～3）は、日本の伝統である矢羽根貼りという突き板の貼り分けで葉のように見立て、柾目による直線的な緊張感を引き出し、そしてサイドビューは枝のように見える有機的なフォルムで、一見相反すると思われるそれらを心地好く融合させ、「LEAF Chair」と命名した。主要素材をブナ成形合板で構成し、後脚は駒を入れプロトタイプを作製した。このように自然のテストを、まずダイニングチェアに落とし込むことで外界と繋げ、本研究のタイトルでもある「家具とオーガニックとの調和」により生活空間自体を、緑との調和をとろうとする人間の自然な働きに、近づけることとした。

■バリエーション展開の紹介

そして家具におけるディティールの繋がりはそれ自体のフォルムを決定付けるのと同じように、インテリアエレメント各々が有機的に関係し合うことで空間が成立すると考え、全体の調和を図りながらバリエーションを展開した（素材についてはNo. 20・21を参照）。

最初にダイニング用インテリアエレメントを、そのLEAF Chairと共鳴させるように、cool：warm＝柾目：板目（No. 4～No. 11）とでイメージを対比させることで互いを引き立たせ、「cool」「warm」ともに2色のダイニングバリエーションを（以降、CADにより）提示。

その他5色のカフェテーブル（No. 13・16・17）。これはまとめて使用する際も、互いが干渉しないよう脚の高さが3種類あり、リビングやダイニング、様々な場やシーンを想定。イージーチェア（No. 12・13）もダイニングチェアの色から更に3色を追加し、合計5色とした。これはリビング用であり、ダイニングより情緒を緩和させたいこともあり、ともに色彩を増やすことで柔軟性を持たせることにした。また、ダイニングチェアより少しラウンジさせ、更に幅も広めにすることで、ゆったりと寛げるよう考案。そして、テラスやサンルームでの使用を想定したラウンジチェア（No. 14・15）。これはイージーチェアから、また、更にラウンジやサイズをゆったりさせ、背座面を網代編みの籐とし、スパやリゾートのようなコントラスト家具（公共施設用家具）をより強く意識させた。このカフェテーブルの脚は、枝のような三本脚（No. 15）とし、デザインの幅を広げた。これらの使用場所がパブリックとプライベートの中間ゾーンだが、パブリックへの配慮から色彩は落ち着いた黒一色で統一。また、カフェレストランなどを想定したスタッキングのできるダイニングチェアを、2色提案（No. 17～19）。

■おわりに

当初、現研究に至るまでに、「地材地消の観点からの家具づくり」という研究から始めたが、現在日本では輸入自由化により自国の木材を入手することがかなり難しく、メーカー自体も海外からの輸入材に頼り、国内の木材を使用しているメーカーはほとんど少ないことが判明した。これはデザイナーだけによる力ではどうすることもできない現状である。そこで再度観点を改め最終的に辿り着いた結果、今回の研究に発展した経緯がある。今回はデザイン作業をしていくプロセスで、コンセプトのブラッシュアップを繰り返した。その経過の最中に、「LEAF Chair」が国際家具デザインコンペティション旭川2008で、ブロンズリーフ賞を受賞することとなった。

現在バブル崩壊と共にメタボリズムは衰退したが、漸く人とモノと建築の関係がよりリアルに接近し、使用価値、社会価値共に成長していることもあり、現代のスローライフ、ロングライフデザインという概念に結びついていると推測する。よって人中心に考えると、モノやコト、インテリアやライフスタイルのようなソフトからデザインを拡散し、そして建築のようなハードへ展開していくというプロセスが、特に現代において最も自然であることが、今回の研究を通して改めて認識できたことが収穫である。そして今回、本研究のコンセプトはひとまず終着したが、これからはこの概念を元に、別のプロジェクトにも反映させていきたい。

作品概要

名称：LEAF Chair

発表時期：2008年

発表場所：シズオカ [KAGU] メッセ、
国際家具デザインコンペティション旭川、
横浜美術館、100%design、リビングセンター OZONE、
にっぽんらいふ2008

制作協力：株式会社ミネルバ









No.4 variation [cool]



No.5 variation [warm]



No.6 variation [cool]



No.7 variation [warm]



No.8 variation [cool]



No.9 variation [warm]



No.10 variation [cool]



No.11 variation [warm]



No.12 variation



No.13 variation



No.14 variation



No.15 variation



No.16 variation



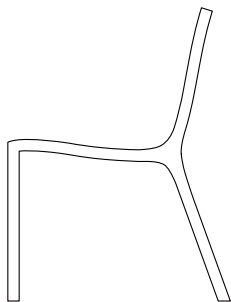
No.17 variation



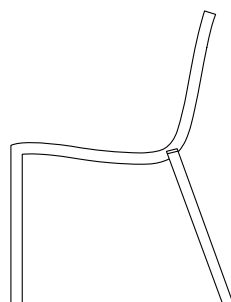
No.18 variation



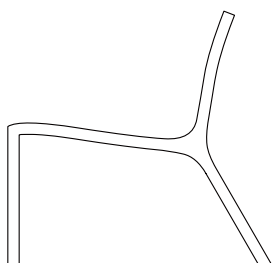
No.19 variation



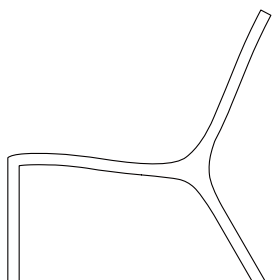
■ダイニングチェア
W450/D540/H775
ナチュラル:背/座面:ブナ+タモ突き板、フレーム:ブナ
ブラウン:背/座面:ブナ+ウォールナット突き板、フレーム:ブナ塗装



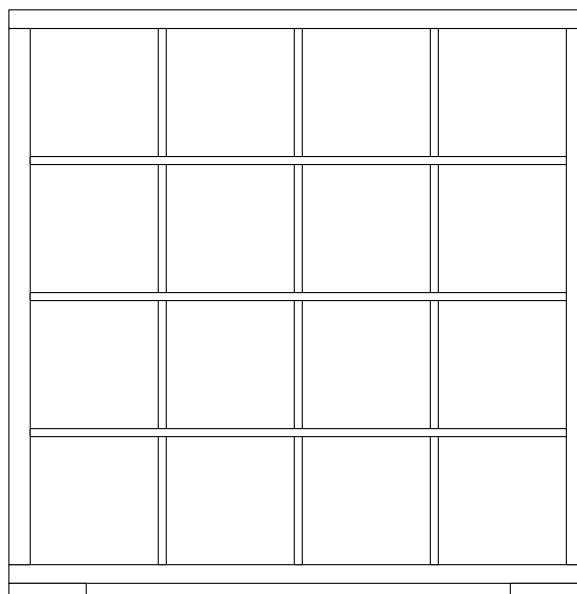
■スタッキングチェア
W500/D540/H775
ナチュラル:背/座面:ブナ+タモ突き板、フレーム:ブナ
ブラウン:背/座面:ブナ+ウォールナット突き板、フレーム:ブナ塗装



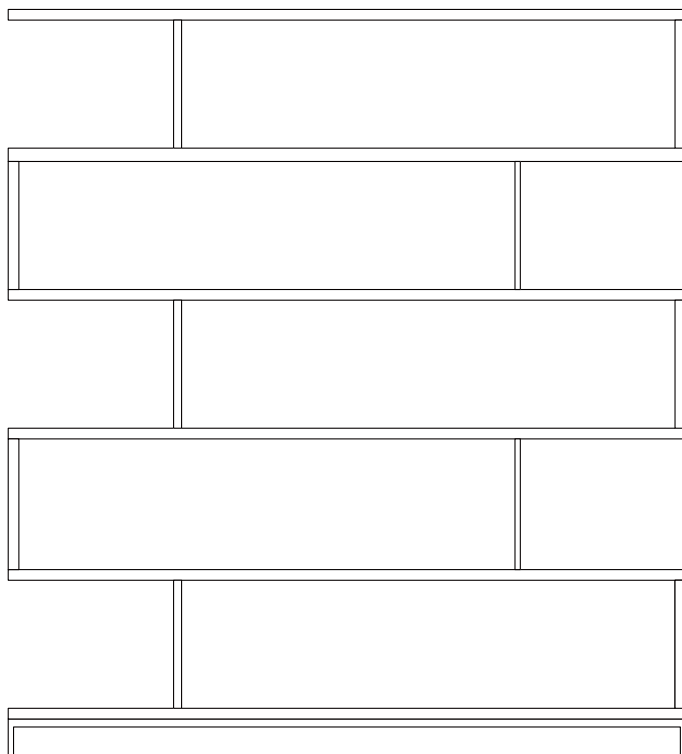
■イージーチェア
W600/D695/H670
背/座面:ブナ+タモ突き板塗装、フレーム:ブナ塗装



■ラウンジチェアW650/D695/H715
背/座面:藤塗装、フレーム:ブナ塗装



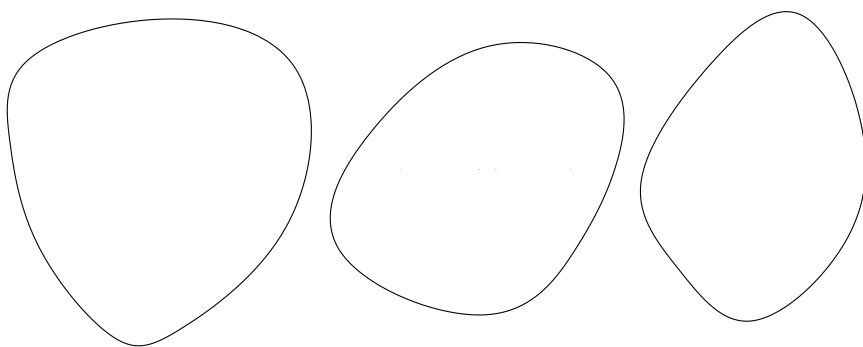
■シェルフ
W1520/D400/H1550
A. ナチュラル:タモ突き板
ブラウン:ウォールナット突き板
B. ナチュラル:ブナ突き板
ブラウン:ブナ突き板塗装



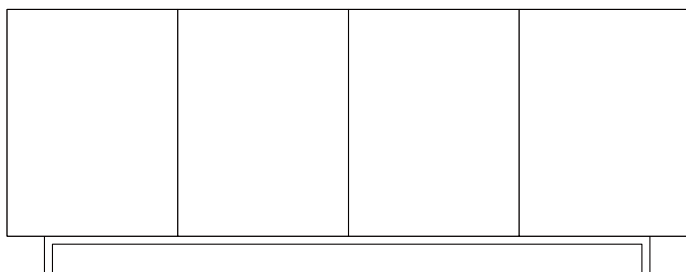
■シェルフ
W1800/D400/H1975
A. ナチュラル:タモ突き板
ブラウン:ウォールナット突き板
B. ナチュラル:ブナ突き板
ブラウン:ブナ突き板塗装
ベース/ステンレス



■ダイニングテーブル
W1800/D900/H700
A. ナチュラル:タモ突き板
ブラウン:ウォールナット突き板
B. ナチュラル:ブナ突き板
ブラウン:ブナ突き板塗装



■カフェテーブル
W・D860、770、820/H700、550、450/ベース直径450
天板/タモ付き板塗装、ベース/ステンレス



■サイドボード
W1800/D450/H700
A. ナチュラル:タモ突き板
ブラウン:ウォールナット突き板
B. ナチュラル:ブナ突き板
ブラウン:ブナ突き板塗装
ベース/ステンレス